

目的 肥満体の身体特徴を総合的に把握し、胴部厚型を設計することを目的として、立体裁断法により得た展開図大値(A)と、身体計測値(B)との相関分析を行ない、(A)の寸法的特徴について検討を試みる。

方法 被験者は、日本人女子学生11名で、年齢 $\bar{x}=19.5$ 才、身長 $\bar{x}=155.81$ cm、体重 $\bar{x}=70.28$ kg、ROHRER係数 $\bar{x}=1.86$ である。身体計測は、マルチン式人体計測器を使用し、54項目の計測を行なった。胴部展開図の採取は、シーティングを実験布として立体裁断法を用いた。

被験者はブラジャーを着用し、二位正常姿勢で、前面は乳房に向けるウエストからのゲージととり、背面は肩甲骨に向ける肩線からのゲージとウエストからのゲージととり、これを平面展開した。今回は以上の(A)と(B)の資料から相関分析を行なった。

結果 展開図大値(A)と身体計測値(B)との相関係数は、前中心丈 $0.96$ ・背丈 $0.93$ ・胴囲 $0.92$ ・胸囲 $0.89$ ・胸幅 $0.89$ ・乳下り $0.88$ ・頭打破囲 $0.76$ と高かった。これに対し背幅 $0.26$ ・背肩幅 $-0.17$ は低い相関を示し、肩傾斜角度も(A)の狭肩角度に対し $0.68$ と予想外に低い相関を示した。これは背幅・背肩幅と共に、肩甲骨の張りや肩部の厚みなど個人差の多い立体的要素を含んでいるためと考えられる。さらに、体重 $(A)$ の胸囲・胸幅・袖ぐり幅に $0.75$ 以上の高い相関を示すという結果を得た。